

599P0705 0500  
#4

JCS25 U.S. PTO  
09/340739  
06/28/99

日 本 国 特 許 庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1998年 6月30日

出 願 番 号

Application Number:

平成10年特許願第184354号

出 願 人

Applicant(s):

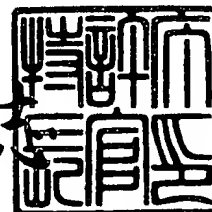
ソニー株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

1999年 3月19日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Patent Office

山 佐 建 志



出 証 番 号 出 証 特 平 11-3016626

【書類名】 特許願

【整理番号】 9800604903

【提出日】 平成10年 6月30日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 19/00

【発明の名称】 情報処理装置および方法、並びに提供媒体

【請求項の数】 5

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

    【氏名】 小島 清信

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

    【氏名】 藤澤 直樹

【特許出願人】

    【識別番号】 000002185

    【氏名又は名称】 ソニー株式会社

    【代表者】 出井 伸之

【代理人】

    【識別番号】 100082131

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 稲本 義雄

    【電話番号】 03-3369-6479

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 032089

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9708842

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報処理装置および方法、並びに提供媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ウィンドウを使用したグラフィックユーザーインターフェースを有し、複数のアプリケーションプログラムの中から所定のものを選択し、動作させることが可能な情報処理装置において、

被写体の画像を撮像する撮像手段と、

使用者の操作を検出する検出手段と、

前記検出手段が操作を検出したとき、前記画像を撮影する前記アプリケーションプログラムをアクティブとなるように制御する制御手段と

を備えることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 前記検出手段は、使用者の第 1 の操作と、第 2 の操作を検出し、

前記制御手段は、前記検出手段が前記第 1 の操作を検出したとき、前記画像を撮影する前記アプリケーションプログラムの前記ウィンドウをアクティブとし、前記第 2 の操作を検出したとき、前記撮像手段による撮像を制御する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】 前記第 1 の操作は、ボタンの半押しであり、前記第 2 の操作は、ボタンの全押しであること

を特徴とする請求項 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】 ウィンドウを使用したグラフィックユーザーインターフェースを有し、複数のアプリケーションプログラムの中から所定のものを選択し、動作させることが可能な情報処理方法において、

被写体の画像を撮像する撮像ステップと、

使用者の操作を検出する検出ステップと、

前記検出ステップで操作が検出されたとき、前記画像を撮影する前記アプリケーションプログラムをアクティブとなるように制御する制御ステップと

を含むことを特徴とする情報処理方法。

【請求項5】 ウィンドウを使用したグラフィックユーザーインターフェースを有し、複数のアプリケーションプログラムの中から所定のものを選択し、動作させることが可能な情報処理装置に、

被写体の画像を撮像する撮像ステップと、

使用者の操作を検出する検出ステップと、

前記検出ステップで操作が検出されたとき、前記画像を撮影する前記アプリケーションプログラムをアクティブとなるように制御する制御ステップと

を含む処理を実行させるコンピュータが読み取り可能なプログラムを提供することを特徴とする提供媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、情報処理装置および方法、並びに提供媒体に関し、特に、画像を撮影する情報処理装置および方法、並びに提供媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、パーソナルコンピュータは、マルチメディアに対応し、使用者またはその他の被写体の映像を取り込むCCDカメラとそのインターフェースなどが取り付けられ、これらに対応したアプリケーションプログラムの実行により、撮影が可能になっている。

【0003】

一方、パーソナルコンピュータの処理能力が、急激に向上し、パーソナルコンピュータのオペレーティングシステムは、ワードプロセッサ、表計算、画像処理などのアプリケーションが同時に動作する、マルチタスクが標準となった。

【0004】

これと同時に、ユーザインターフェースは、グラフィック表示によるウィンドウシステムが標準となり、パーソナルコンピュータの操作の主体は、キーボードから、マウスやトラックボールなどのポインティングデバイスに変化した。

## 【0005】

このため、パーソナルコンピュータに取り付けられたCCDカメラを利用して、被写体の映像を撮影しようとするとき、使用者は、ポインティングデバイスの操作により、初めに、撮影用のアプリケーションをアクティブにし、次に、撮影の操作を行う必要がある。

## 【0006】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ポインティングデバイスによる操作は、ポインタの位置を移動し、ボタンなどを押さなければならず、手間がかかり、シャッターチャンスを逃しやすいという問題があった。

## 【0007】

本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、1つのボタンの操作だけで、パーソナルコンピュータで撮影を実行できるようにすることを目的とする。

## 【0008】

## 【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の情報処理装置は、被写体の画像を撮像する撮像手段と、使用者の操作を検出する検出手段と、検出手段が操作を検出したとき、画像を撮影するアプリケーションプログラムをアクティブとなるように制御する制御手段とを備えることを特徴とする。

## 【0009】

請求項4に記載の情報処理方法は、被写体の画像を撮像する撮像ステップと、使用者の操作を検出する検出ステップと、検出ステップで操作が検出されたとき、画像を撮影するアプリケーションプログラムをアクティブとなるように制御する制御ステップとを含むことを特徴とする。

## 【0010】

請求項5に記載の提供媒体は、情報処理装置に、被写体の画像を撮像する撮像ステップと、使用者の操作を検出する検出ステップと、検出ステップで操作が検出されたとき、画像を撮影するアプリケーションプログラムをアクティブとなる

ように制御する制御ステップとを含む処理を実行させるコンピュータが読み取り可能なプログラムを提供することを特徴とする。

【0011】

請求項1に記載の情報処理装置、請求項4に記載の情報処理法、および請求項5に記載の提供媒体においては、被写体の画像を撮像し、使用者の操作を検出し、操作を検出したとき、画像を撮影するアプリケーションプログラムをアクティブとなるように制御する。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下に本発明の実施の形態を説明するが、特許請求の範囲に記載の発明の各手段と以下の実施の形態との対応関係を明らかにするために、各手段の後の括弧内に、対応する実施の形態（但し一例）を付加して本発明の特徴を記述すると、次のようになる。但し勿論この記載は、各手段を記載したものに限定することを意味するものではない。

【0013】

すなわち、請求項1に記載の情報処理装置は、被写体の画像を撮像する撮像手段（例えば、図7のCCDビデオカメラ23）と、使用者の操作を検出する検出手段（例えば、図7の半押しスイッチ85）と、検出手段が操作を検出したとき、画像を撮影するアプリケーションプログラムをアクティブとなるように制御する制御手段（例えば、図7のCPU52）とを備えることを特徴とする。

【0014】

図1乃至図6は、本発明を適用した携帯型パーソナルコンピュータの構成例を表している。このパーソナルコンピュータ1は、ミニノート型のパーソナルコンピュータとされ、基本的に、本体2と、本体2に対して開閉自在とされている表示部3により構成されている。図1は、表示部3を本体2に対して開いた状態を示す外観斜視図、図2は、図1の平面図、図3は、表示部3を本体2に対して閉塞した状態を示す左側側面図、図4は、表示部3を本体2に対して180度開いた状態を示す右側側面図、図5は、図3の正面図、図6は、図4の底面図である。

## 【0015】

本体2には、各種の文字や記号などを入力するとき操作されるキーボード4、マウスカーソルを移動させるときなどに操作されるトラックポイント（商標）5が、その上面に設けられている。また、本体2の上面には、音を出力するスピーカ8と、表示部3に設けられているCCDビデオカメラ23で撮像するとき操作されるシャッターボタン10がさらに設けられている。

## 【0016】

表示部3の上端部には、ツメ13が設けられており、図3に示すように、表示部3を本体2に対して閉塞した状態において、ツメ13に対向する位置における本体2には、ツメ13が嵌合する孔部6が設けられている。本体2の前面には、スライドレバー7が前面に平行に移動可能に設けられており、スライドレバー7は孔部6に嵌合したツメ13と係合してロックし、またロック解除することができるようになっている。ロックを解除することにより、表示部3を本体2に対して回動することができる。ツメ13の隣りには、マイクロホン24が取り付けられている。このマイクロホン24は、図6にも示すように、背面からの音も収音できるようになされている。

## 【0017】

本体2の正面にはまた、プログラマブルパワーキー（PPK）9が設けられている。本体2の右側面には、図4に示すように、排気孔11が設けられており、本体2の前面下部には、図5に示すように、吸気孔14が設けられている。さらに、排気孔11の右側には、PCMCIA（Personal Computer Memory Card International Association）カード（PCカード）を挿入するためのスロット12が設けられている。

## 【0018】

表示部3の正面には、画像を表示するLCD（Liquid Crystal Display）21が設けられており、その上端部には、撮像部22が、表示部3に対して回動自在に設けられている。すなわち、この撮像部22は、LCD21と同一の方向と、その逆の方向（背面の方向）との間の180度の範囲の任意の位置に回動することができるようになされている。撮像部22には、CCDビデオカメラ23が取り付け



られている。

#### 【0019】

表示部3の下側の本体側には、電源ランプPL、電池ランプBL、メッセージランプML、その他のLEDよりなるランプが設けられている。なお、図3に示す符号40は、本体2の左側面に設けられた電源スイッチであり、図5に示す符号25は、CCDビデオカメラ23のフォーカスを調整する調整リングである。さらに、図6に示す符号26は、本体2内に増設メモリを取り付けるための開口部を被覆する蓋であり、符号41は、蓋26のロックツメを外すためのピンを挿入する小孔である。

#### 【0020】

図7は、パーソナルコンピュータ1の内部の構成を表している。内部バス51には、図7に示すように、CPU (Central Processing Unit) 52、必要に応じて挿入されるPCカード53、RAM (Random Access Memory) 54、およびグラフィックチップ81が接続されている。この内部バス51は、外部バス55に接続されており、外部バス55には、ハードディスクドライブ (HDD) 56、I/O (入出力) コントローラ57、キーボードコントローラ58、トラックポイントコントローラ59、サウンドチップ60、LCDコントローラ83、モデム50などが接続されている。

#### 【0021】

CPU52は、各機能を統括するコントローラであり、PCカード53は、オプションの機能を付加するとき適宜装着される。

#### 【0022】

RAM54の中には、起動が完了した時点において、電子メールプログラム (アプリケーションプログラム) 54A、オートパイロットプログラム (アプリケーションプログラム) 54B、そしてOS (基本プログラム) 54Cが、HDD56から転送され、記憶される。

#### 【0023】

電子メールプログラム54Aは、電話回線のような通信回線などからネットワーク経由で通信文を授受するプログラムである。電子メールプログラム54Aは

、特定機能としての着信メール取得機能を有している。この着信メール取得機能は、メールサーバ 93 に対して、そのメールボックス 93 A 内に自分（利用者）宛のメールが着信しているかどうかを確認して、自分宛のメールがあれば取得する処理を実行する。

【0024】

オートパイロットプログラム 54 B は、予め設定された複数の処理（またはプログラム）などを、予め設定された順序で順次起動して、処理するプログラムである。

【0025】

OS（基本プログラムソフトウェア）54 C は、Windows 95（商標）に代表される、コンピュータの基本的な動作を制御するものである。

【0026】

一方、外部バス 55 側のハードディスクドライブ（HDD）56 には、電子メールプログラム 56 A、オートパイロットプログラム 56 B、OS（基本プログラムソフトウェア）56 C が記憶されている。ハードディスクドライブ 56 内の OS 56 C、オートパイロットプログラム 56 B、および電子メールプログラム 56 A は、起動（ブートアップ）処理の過程で、RAM 54 内に順次転送され、格納される。

【0027】

I/O コントローラ 57 は、マイクロコントローラ 61 を有し、このマイクロコントローラ 61 には、I/O インタフェース 62 が設けられている。このマイクロコントローラ 61 は、I/O インタフェース 62、CPU 63、RAM 64、ROM 69 が相互に接続されて構成されている。この RAM 64 は、キー入力ステータスレジスタ 65、LED（発光ダイオード）制御レジスタ 66、設定時刻レジスタ 67、レジスタ 68 を有している。設定時刻レジスタ 67 は、ユーザが予め設定した時刻（起動条件）になると起動シーケンス制御部 76 の動作を開始させる際に利用される。レジスタ 68 は、予め設定された操作キーの組み合わせ（起動条件）と、起動すべきアプリケーションプログラムの対応を記憶するもので、その記憶された操作キーの組み合わせがユーザにより入力されると、その記憶されたア

アプリケーションプログラム（例えば電子メール）が起動されることになる。

#### 【0028】

キー入カステイタスレジスタ65は、ワンタッチ操作作用のプログラマブルパワーキー（PPK）9が押されると、操作キーフラグが格納されるようになっている。LED制御レジスタ66は、レジスタ68に記憶されたアプリケーションプログラム（電子メール）の立ち上げ状態を表示するメッセージランプMLの点灯を制御するものである。設定時刻レジスタ67は、所定の時刻を任意に設定することができるものである。

#### 【0029】

なお、このマイクロコントローラ61には、バックアップ用のバッテリー74が接続されており、各レジスタ65、66、67の値は、本体2の電源がオフとされている状態においても保持されるようになっている。

#### 【0030】

マイクロコントローラ61内のROM69の中には、ウェイクアッププログラム70、キー入力監視プログラム71、LED制御プログラム72が予め格納されている。このROM69は、例えばEEPROM (electrically erasable and programmable read only memory) で構成されている。このEEPROMはフラッシュメモリとも呼ばれている。さらにマイクロコントローラ61には、常時現在時刻をカウントするRTC (Real-Time Clock) 75が接続されている。

#### 【0031】

ROM69の中のウェイクアッププログラム70は、RTC75から供給される現在時刻データに基づいて、設定時刻レジスタ67に予め設定された時刻になったかどうかをチェックして、設定された時刻になると、所定の処理（またはプログラム）などの起動をするプログラムである。キー入力監視プログラム71は、PPK9が利用者により押されたかどうかを常時監視するプログラムである。LED制御プログラム72は、メッセージランプMLの点灯を制御するプログラムである。

#### 【0032】

ROM69には、さらにBIOS (Basic Input/Output System) 73が書き込まれている。このBIOSとは、基本入出力システムのことをいい、OSやアプリケーション

ンソフトウェアと周辺機器（ディスプレイ、キーボード、ハードディスクドライブなど）の間でのデータの受け渡し（入出力）を制御するソフトウェアプログラムである。

【0033】

外部バス55に接続されているキーボードコントローラ58は、キーボード4からの入力をコントロールする。トラックポイントコントローラ59は、トラックポイント5の入力を制御する。

【0034】

サウンドチップ60は、マイクロホン24からの入力を取り込み、あるいは内蔵スピーカ8に対して音声信号を供給する。

【0035】

モデム50は、公衆電話回線90、インターネットサービスプロバイダ91を介して、インターネットなどの通信ネットワーク92やメールサーバ93などに接続することができる。

【0036】

内部バス51に接続されているグラフィックチップ81には、CCDビデオカメラ23で取り込んだ画像データが、処理部82で処理された後、入力されるようになされている。グラフィックチップ81は、処理部82を介してCCDビデオカメラ23より入力されたビデオデータを、内蔵するVRAM81に記憶し、適宜、これを読み出して、LCDコントローラ83に出力する。LCDコントローラ83は、グラフィックチップ81より供給された画像データをLCD21に出力し、表示させる。バックライト84は、LCD21を後方から照明するようになされている。

【0037】

電源スイッチ40は、電源をオンまたはオフするとき操作される。半押しスイッチ85は、シャッターボタン10が半押し状態にされたときオンされ、全押しスイッチ86は、シャッターボタン10が全押し状態にされたときオンされる。反転スイッチ87は、撮像部22が180度回転されたとき（CCDビデオカメラ23がLCD21の反対側を撮像する方向に回転されたとき）、オンされるようになされている。

## 【0038】

図8は、撮影対象物をパーソナルコンピュータ1で撮影する状態を説明する図である。パーソナルコンピュータ1の使用者は、表示部3の上端部に設けられた撮像部22を、LCD21と逆方向に回転させ、使用者の正面の対象物の画像を撮影する。

## 【0039】

図9は、シャッターボタン10を押す前のLCD21の表示を表す図である。画像撮影用アプリケーションプログラムのウィンドウ111は、表計算アプリケーションプログラムのウィンドウ112およびワードプロセッサアプリケーションプログラムのウィンドウ113の後ろに表示されている状態にある。

## 【0040】

図10は、シャッターボタン10を半押ししたときのLCD21の表示を表す図である。シャッターボタン10を半押しすると、ポインタ114で画像撮影用アプリケーションプログラムのウィンドウ111をクリックしなくとも、ウィンドウ111は、アクティブにされ、表計算アプリケーションプログラムのウィンドウ112およびワードプロセッサアプリケーションプログラムのウィンドウ113の前に表示される。更に、画像撮影用アプリケーションプログラムのウィンドウ111に表示された画像は、ホールドされ、パーソナルコンピュータ1の向きを変えても、変化しない。この状態から、シャッターボタン10を全押しすると、画像撮影用アプリケーションプログラムのウィンドウ111に表示された画像は、所定の形式で、HDD56に保存される。

## 【0041】

シャッターボタン10を半押しした状態から離すと、画像撮影用アプリケーションプログラムは、ウィンドウ111の画像のホールドを解除する。

## 【0042】

図11は、静止画像を撮影する処理を説明するフローチャートである。ステップS11において、CPU52は、半押しスイッチ85の入力から、シャッターボタン10が半押しされたか否かを判定し、シャッターボタン10が半押しされたと判定された場合、ステップS12に進み、静止画撮影アプリケーションプログラム

のウィンドウをアクティブにし、他のアプリケーションプログラムのウィンドウの前に出す。ステップS13において、CPU52は、静止画撮影アプリケーションプログラムのウィンドウに表示された画像（CCDビデオカメラ23から取り込んだ画像）をホールドする。

【0043】

ステップS14において、CPU52は、半押しスイッチ85の入力から、シャッターボタン10が離されたか否かを判定し、シャッターボタンが離されていないと判定された場合、手続は、ステップS15に進む。ステップS15において、CPU52は、全押しスイッチ86の入力から、シャッターボタン10が全押しされたか否かを判定し、シャッターボタン10が全押しされたと判定された場合、ステップS16に進み、静止画撮影アプリケーションプログラムのウィンドウに表示された画像を、所定の形式で、HDD56に保存し、処理を終了する。

【0044】

ステップS15において、シャッターボタン10が全押しされていないと判定された場合、手続は、ステップS14に戻り、シャッターボタン10の操作を判定する処理を継続する。

【0045】

ステップS11において、シャッターボタン10が半押しされていないと判定された場合、および、ステップS14において、シャッターボタンが離されたと判定された場合、処理は終了する。

【0046】

以上のように、使用者は、シャッターボタン10を操作するだけで、静止画像の撮影を実行できる。

【0047】

次に、動画撮影の処理を説明する。図12は、動画を撮影する処理を説明するフローチャートである。ステップS21において、CPU52は、半押しスイッチ85の入力から、シャッターボタン10が半押しされたか否かを判定し、シャッターボタン10が半押しされたと判定された場合、ステップS22に進み、動画撮影アプリケーションプログラムのウィンドウをアクティブにし、他のアプリケーシ

ョンプログラムのウィンドウの前に出す。

【0048】

ステップS23において、CPU52は、半押しスイッチ85の入力から、シャッターボタン10が離されたか否かを判定し、シャッターボタンが離されていないと判定された場合、手続は、ステップS24に進む。ステップS24において、CPU52は、全押しスイッチ86の入力から、シャッターボタン10が全押しされたか否かを判定し、シャッターボタン10が全押しされたと判定された場合、ステップS25に進む。ステップS25において、CPU52は、動画撮影を実行中か否かを判定し、動画撮影を実行中でないと判定された場合、ステップS26に進み、動画撮影を開始し、処理を終了する。ステップS25において、動画撮影を実行中であると判定された場合、ステップS27に進み、動画撮影を停止し、処理を終了する。

【0049】

ステップS24において、シャッターボタン10が全押しされていないと判定された場合、手続は、ステップS23に戻り、シャッターボタン10の操作を判定する処理を継続する。

【0050】

ステップS21において、シャッターボタン10が半押しされていないと判定された場合、および、ステップS23において、シャッターボタンが離されたと判定された場合、処理は終了する。

【0051】

以上のように、使用者は、シャッターボタン10を操作するだけで、動画の撮影を、実行または停止できる。

【0052】

このように、静止画像の撮影および動画の撮影を、シャッターボタン10だけで、実行または停止できるので、使用者は、シャッターチャンスを見逃すことがない。

【0053】

なお、本明細書において、静止画撮影アプリケーションプログラム、または動画撮影アプリケーションプログラムは、予め実行されているとして説明したが、

シャッターボタン 10 の半押しにより、所定の静止画撮影アプリケーションプログラム、または動画撮影アプリケーションプログラムを実行するようにしてもよい。

【0054】

なお、上記したような処理を行うコンピュータプログラムをユーザに提供する提供媒体としては、磁気ディスク、CD-ROM、固体メモリなどの記録媒体の他、ネットワーク、衛星などの通信媒体を利用することができる。

【0055】

【発明の効果】

請求項 1 に記載の情報処理装置、請求項 4 に記載の情報処理法、および請求項 5 に記載の提供媒体によれば、被写体の画像を撮像し、使用者の操作を検出し、操作を検出したとき、画像を撮影するアプリケーションプログラムをアクティブとなるように制御するようにしたので、シャッターボタンだけで、静止画像の撮影および動画の撮影を、操作することが可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

パーソナルコンピュータの構成例を表す図である。

【図 2】

パーソナルコンピュータの上面図である。

【図 3】

パーソナルコンピュータの側面図である。

【図 4】

表示部 3 を開いた状態のパーソナルコンピュータの側面図である。

【図 5】

パーソナルコンピュータの正面図である。

【図 6】

パーソナルコンピュータの底面図である。

【図 7】

パーソナルコンピュータの機能ブロック図である。



【図 8】

撮影対象物をパーソナルコンピュータ 1 で撮影する状態を説明する図である。

【図 9】

シャッターボタン 10 を押す前の LCD 21 の表示を表す図である。

【図 10】

シャッターボタン 10 を半押ししたときの LCD 21 の表示を表す図である。

【図 11】

静止画像を撮影する処理を説明するフローチャートである。

【図 12】

動画を撮影する処理を説明するフローチャートである。

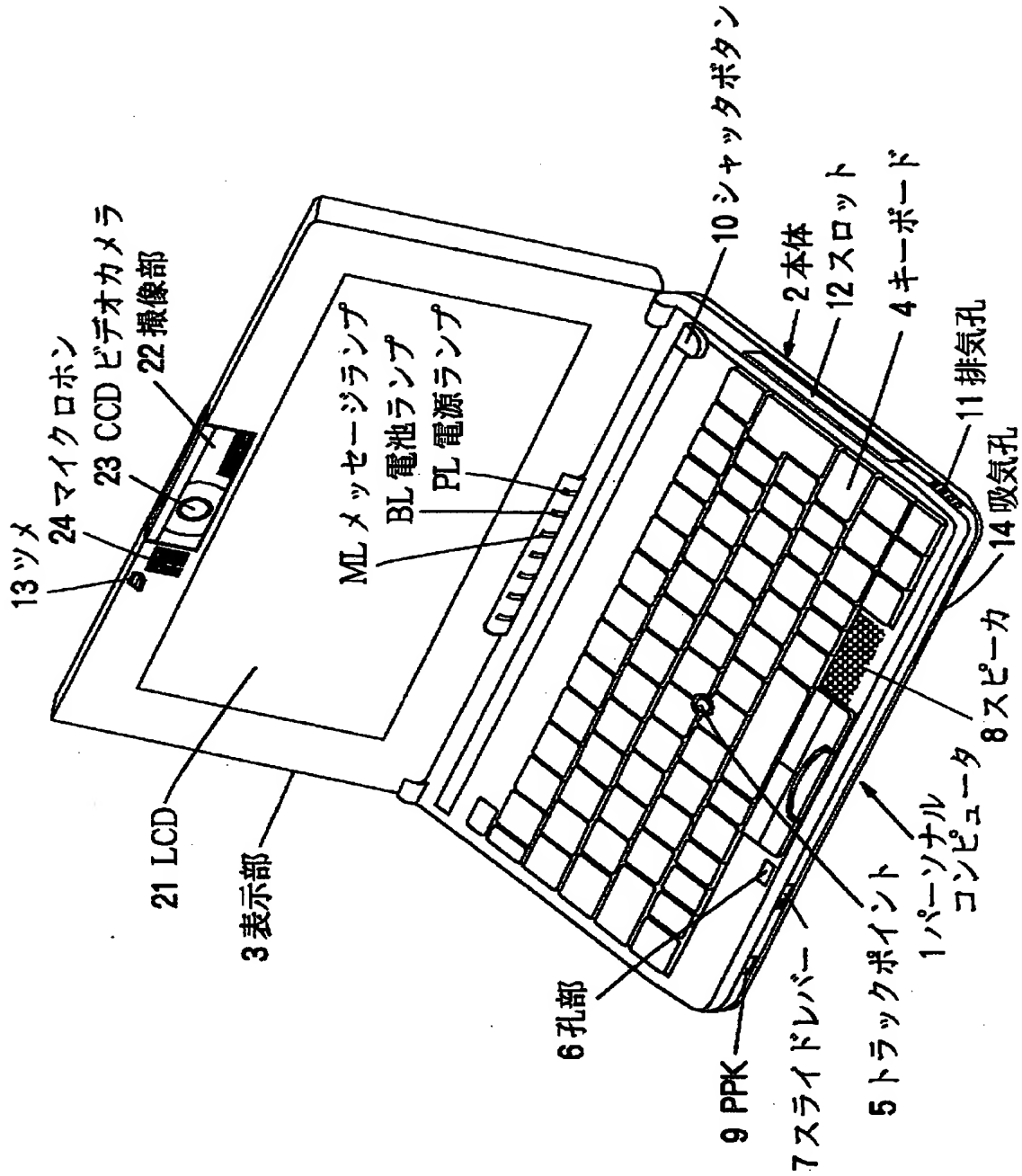
【符号の説明】

1 パーソナルコンピュータ, 10 シャッターボタン, 21 LCD, 2  
2 撮像部, 52 CPU, 56 HDD, 85 半押しスイッチ, 86 全  
押しスイッチ, 111 ウィンドウ

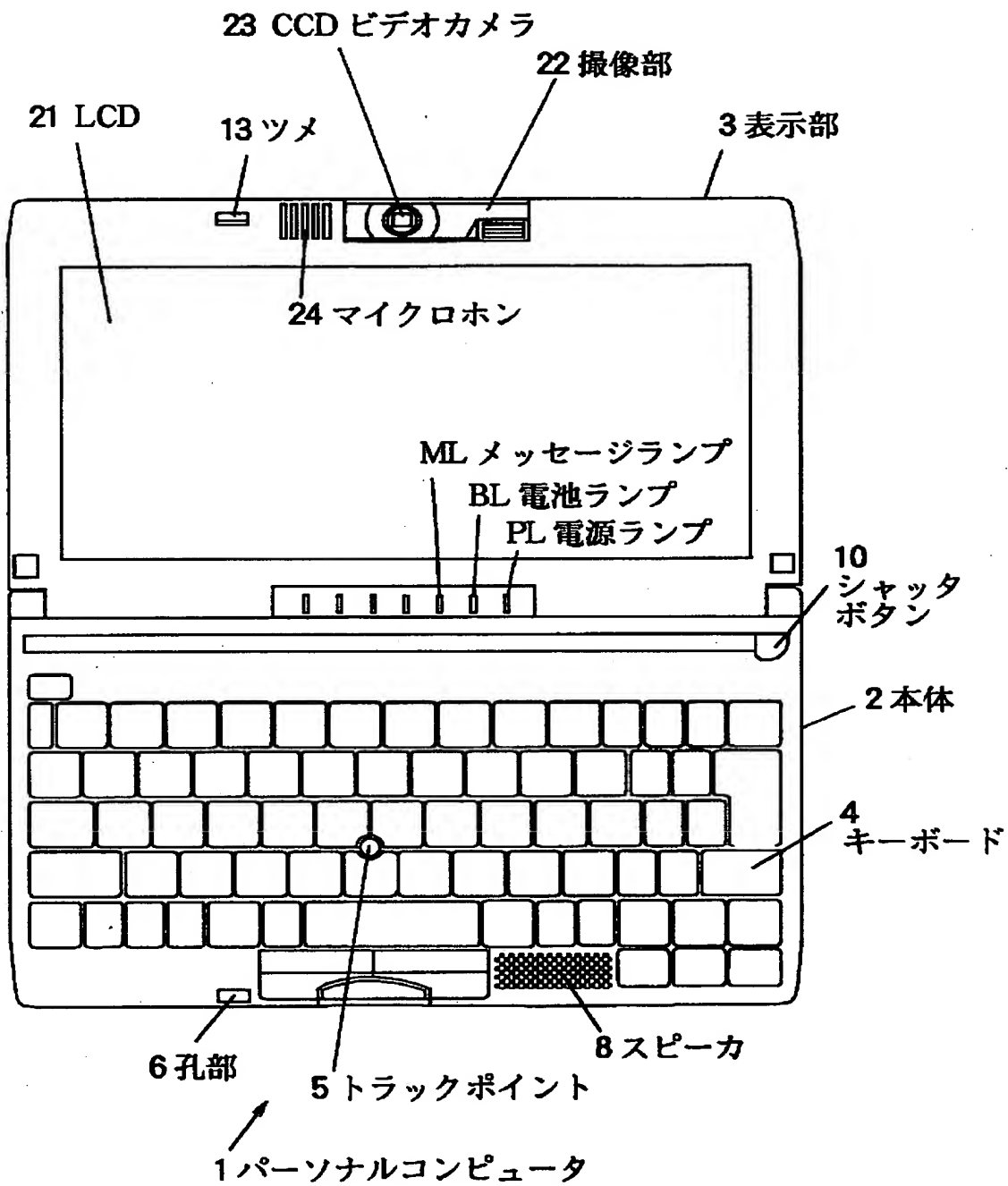
【書類名】

図面

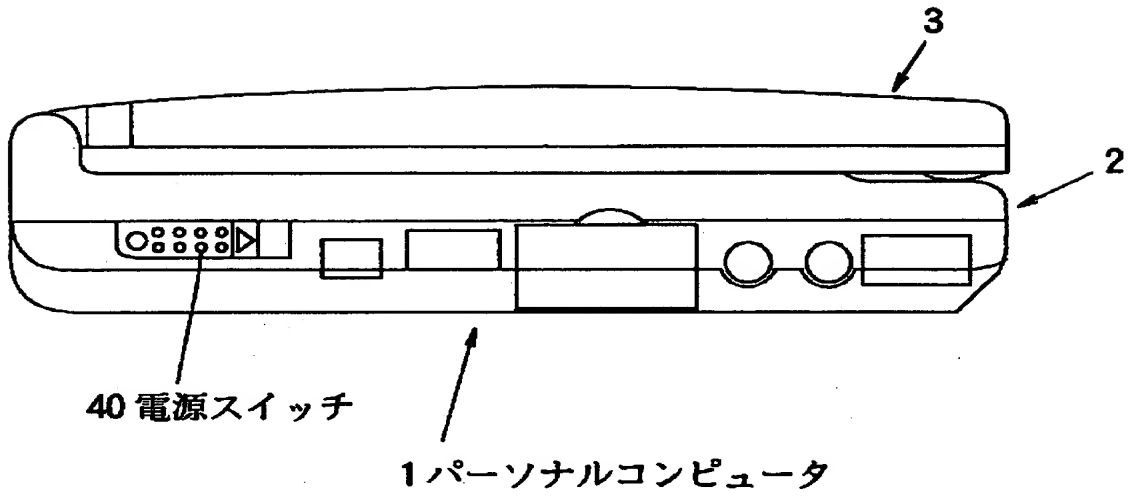
【図 1】



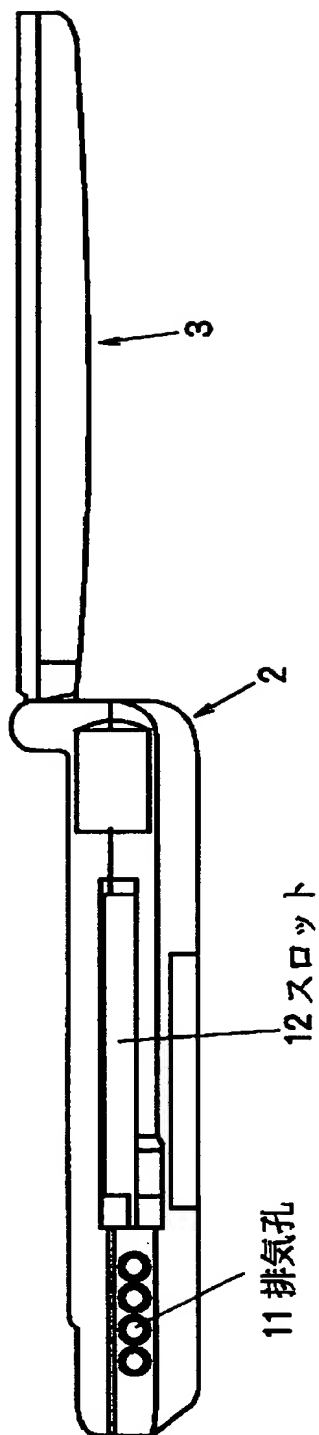
【図 2】



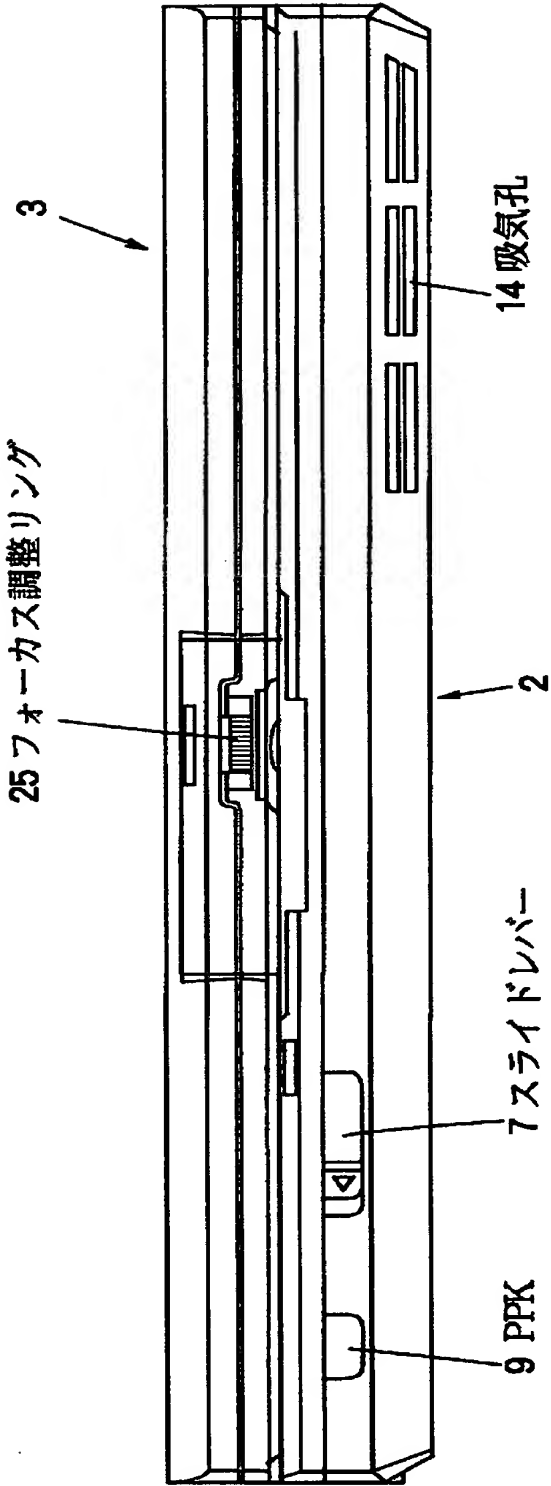
【図 3】



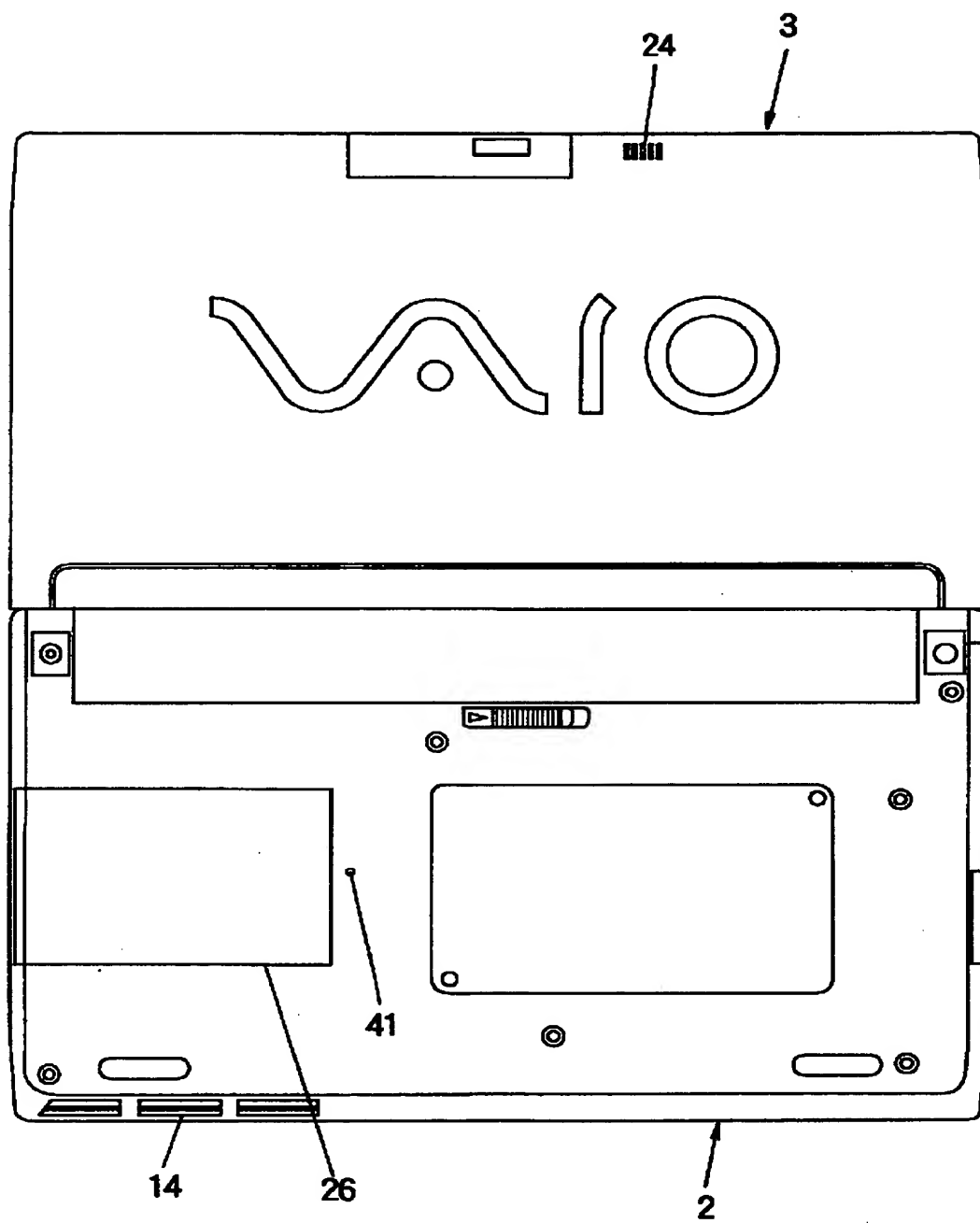
【図 4】



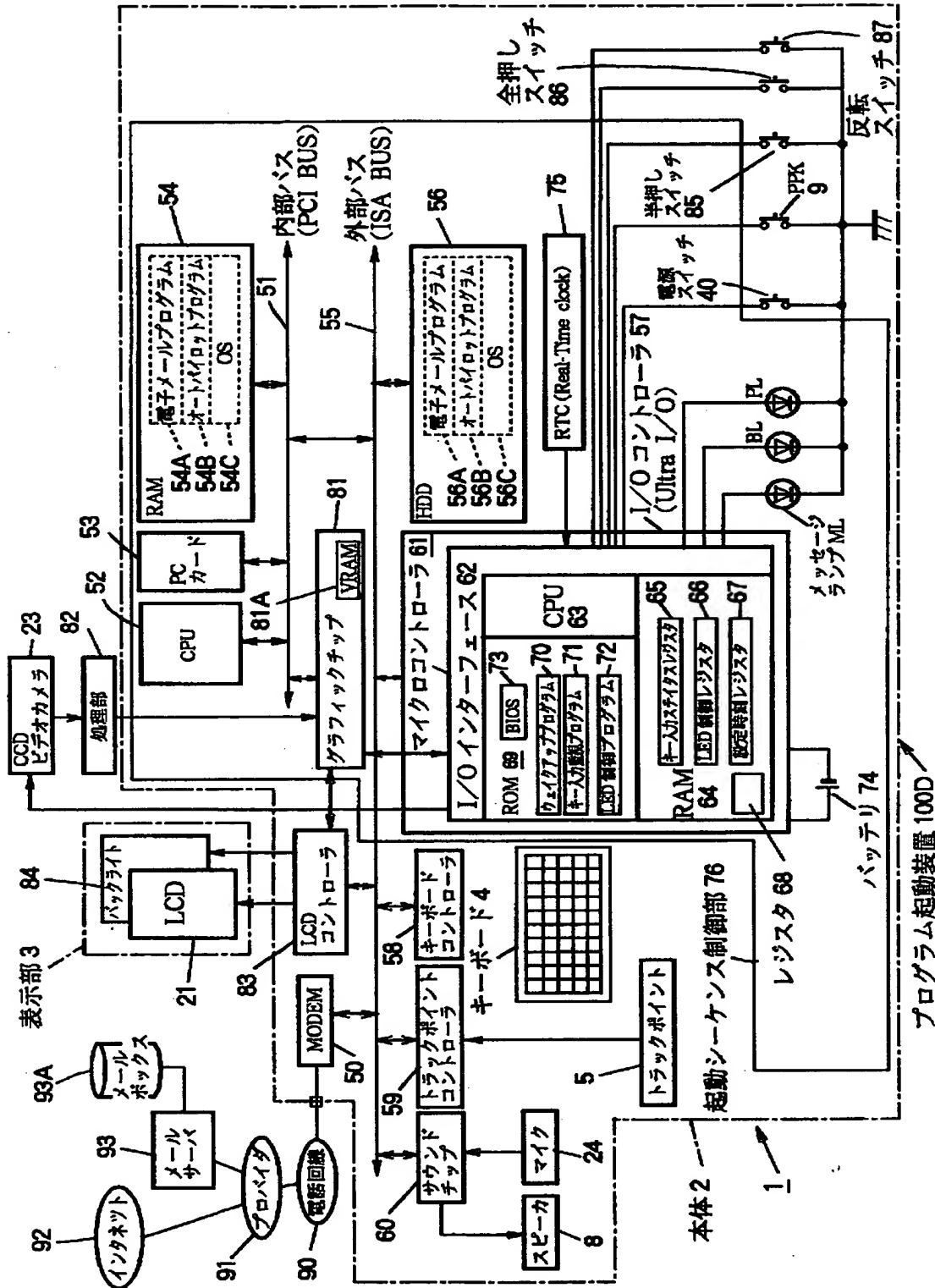
【図 5】



【図6】

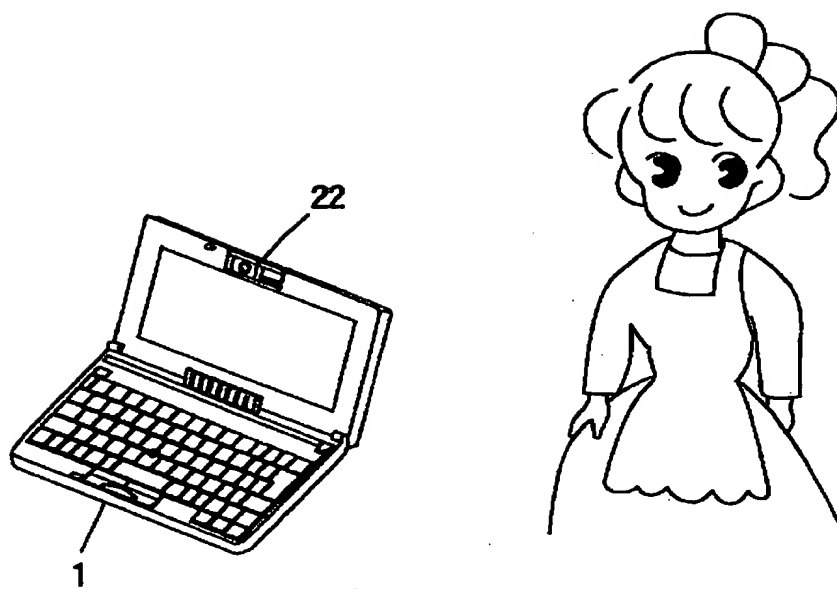


【図 7】

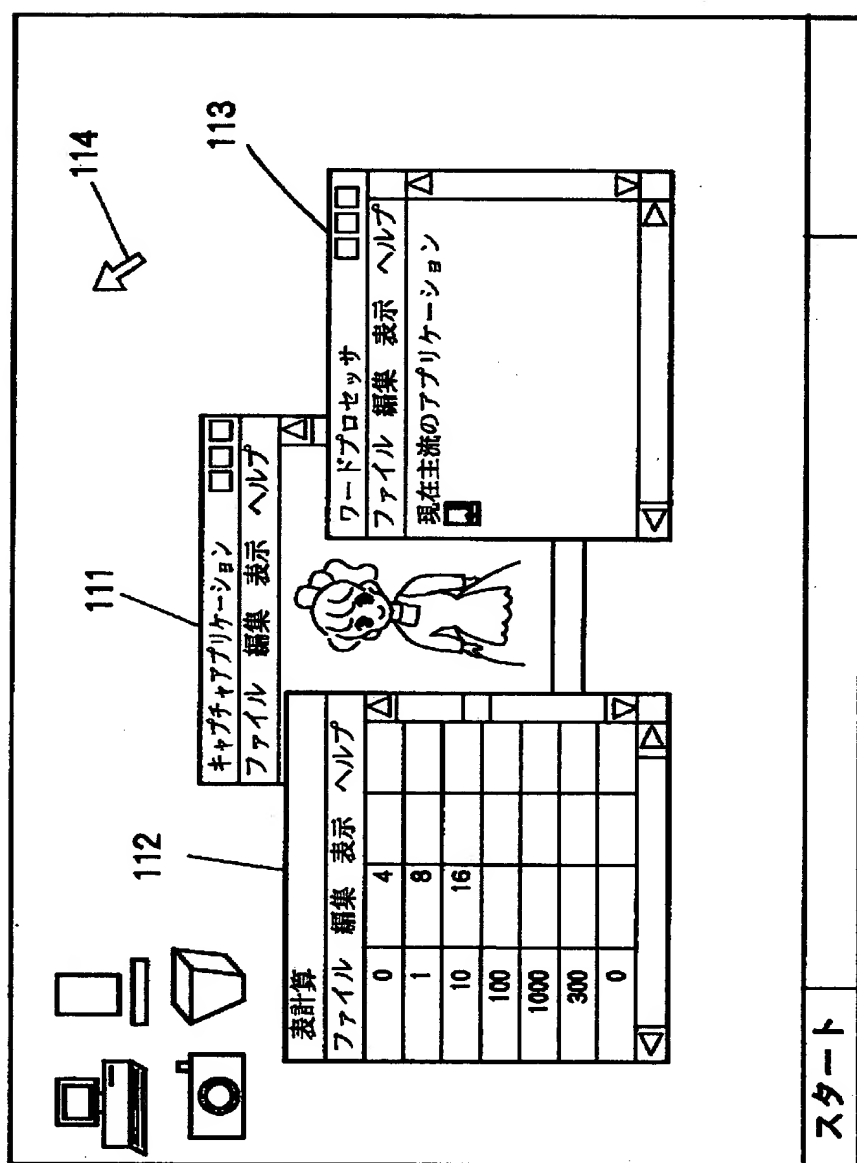




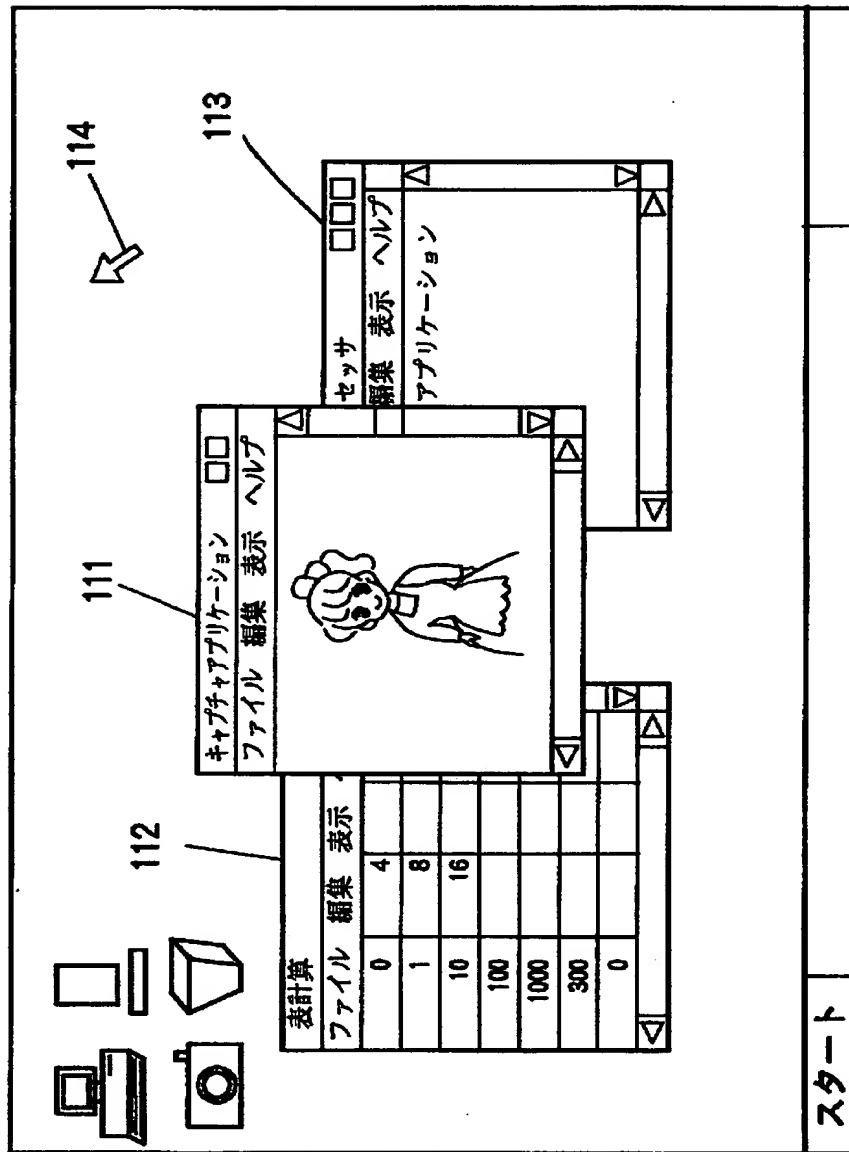
【図 8】



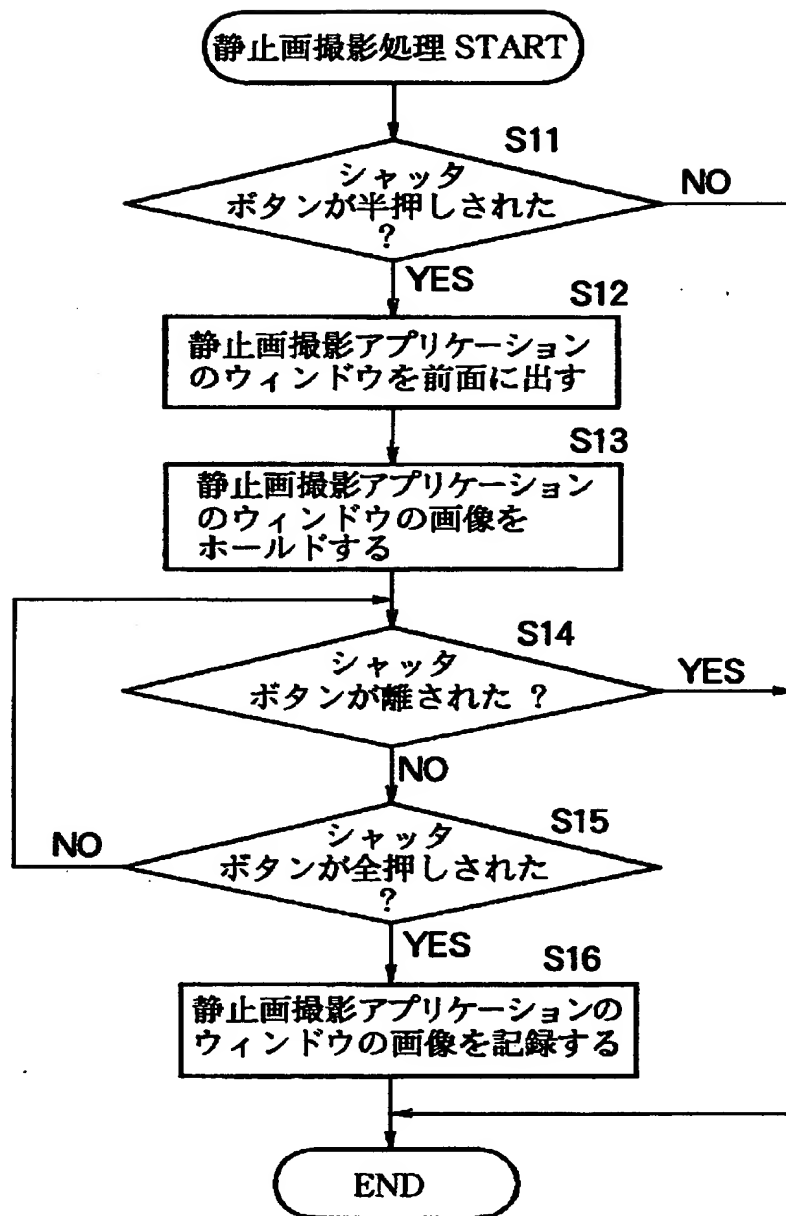
【図 9】



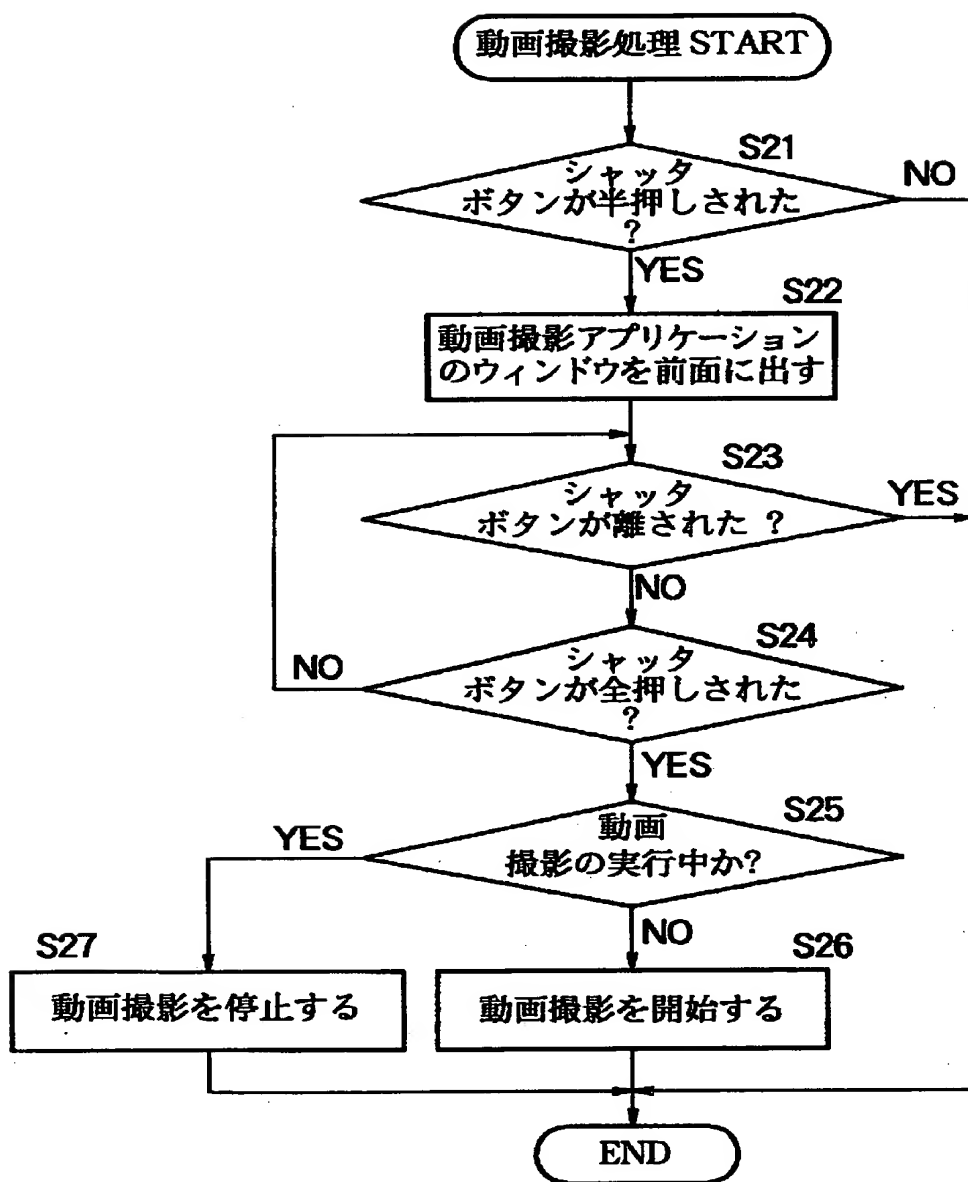
【図 10】



【図 11】



【図 12】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 1つのボタンの操作だけで、パーソナルコンピュータで撮影を実行する。

【解決手段】 半押しスイッチ85が入ると、CPU52は、画像撮影用アプリケーションプログラムのウィンドウを、アクティブにし、他のアプリケーションプログラムのウィンドウの前に表示させる。画像撮影用アプリケーションプログラムのウィンドウに表示された画像は、ホールドされ、パーソナルコンピュータ1の向きを変えても、変化しない。全押しスイッチ86が入ると、画像撮影用アプリケーションプログラムのウィンドウに表示された画像は、所定の形式で、HDD56に保存される。

【選択図】 図7

【書類名】 職権訂正データ  
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000002185  
【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号  
【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代理人】

申請人  
【識別番号】 100082131  
【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿7丁目5番8号 GOWA西新宿ビル6F 稲本国際特許事務所  
【氏名又は名称】 稲本 義雄

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号  
氏 名 ソニー株式会社